

令和 5 年度 施策評価表

第 4 章 『みどりあふれる持続可能なエコタウン』

まちづくりの目標	エネルギーや資源を多量に消費する浪費型の生活を見直し、人と自然がともに生きる、みどりあふれる持続可能なまちをめざします。
分野別計画・指針	所沢市マチごとエコタウン推進計画(第3期所沢市環境基本計画)、所沢市地球温暖化対策実行計画、所沢市環境教育等に関する行動計画、第三次不老川生活排水対策推進計画、所沢市みどりの基本計画、所沢市水とみどりがつくるネットワーク計画、生物多様性ところざわ戦略、公共施設緑化ガイドライン みどりつなぐまち 所沢、所沢市一般廃棄物処理基本計画

第1節	低炭素社会
関係所属	マチごとエコタウン推進課、道路建設課、河川課

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和4年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,571人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「低炭素社会」 所沢市は地球温暖化防止や環境配慮に熱心なまちだ	395	15.4%	212	8.2%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H28)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
	市域における温室効果ガス排出量の削減率	%	4.8	12.7 (R3目標11.0)	30.4 (R3実績)	○	16.1

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
4-1-1	地球温暖化緩和策の推進	市の事務事業から発生する温室効果ガスの削減率	%	(H28) 15.2	25.2 (R3目標23.6)	69.0 (R3実績)	○	28.6
4-1-2	エネルギー使用に伴う環境負荷の低減	市域における再生可能エネルギー設備の総出力	MW	(H28) 33.6	40.2 (R3目標39.0)	41.0 (R3実績)	○	42.6
4-1-3	気候変動の影響への適応	雨水流出抑制指導による施設の設置割合	%	(H29) 100	100	100	○	100

節の基本方針への取り組み状況	
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○脱炭素社会の実現に向けて、市・事業者・市民といった各主体の責務を明らかにするとともに、施策の基本的な事項を示し、推進することを目的とした「所沢市脱炭素社会を実現するための条例」を制定した。</p> <p>○市民一人ひとりが気候変動問題について主体的に考え、市域の脱炭素化に係る課題点及び方策等について議論してもらう場として、無作為抽出によって選出された市民で構成される「マチごとゼロカーボン市民会議」を開催し、所沢市マチごとエコタウン推進計画の改定に反映させるため、会議結果を環境審議会に提出した。</p> <p>○市の施設から排出される温室効果ガスについては、「(株)ところざわ未来電力」を通じた環境にやさしい電力の利用、太陽光発電やごみ焼却発電等による自家消費の継続的な実施及び各施設における省エネ機器の導入等により、前年度から285t削減(令和3年度実績)することができた。</p> <p>○温室効果ガスの排出割合が高い民生家庭・業務部門への対策を推進するため、省エネ・創エネ機器の導入及び住宅の断熱改修等に係る経費の一部を助成する「スマートハウス化推進補助事業」を実施した。令和4年度は、家庭526件、事業者2件に補助金を交付し、合計約570tのCO2削減を図った。</p> <p>○埼玉県及び清瀬市と共同で、一級河川柳瀬川の浸水被害軽減を図るために、清柳橋の架け替え工事に取り組んでいる。令和4年度は、令和3年度に着手した橋りょう上部工事を完成させ、併せて取付道路工事(施工延長約30メートル)及び周辺道路整備のため、市道1-900号線の改良舗装工事(施工延長約30メートル)を完成させた。</p> <p>○開発事業による雨水の流出を抑制するため、開発事業者に対し雨水抑制施設設置の行政指導を行い、完了検査を受けた全ての開発事業(86件)で設置された。</p>	
<p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p>	

今後の方向性

◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- 脱炭素社会の実現に向け、所沢市マチごとエコタウン推進計画の中間改定を行う。
- 市内事業者を中心とした「所沢市脱炭素経営ネットワーク会議」を新たに設置し、事業者が新たなビジネスチャンスを獲得する機会として脱炭素経営へのシフトを促していく。
- 公共施設太陽光発電導入調査の結果を基に設置可能な施設への設置を計画的に進める。
- 市域の効果的な脱炭素対策として、初期費用ゼロ円太陽光補助事業やスマートハウス化推進補助事業、家庭・事業者への環境にやさしい電力の普及をさらに推進する。
- 一級河川柳瀬川の治水対策を推進するため、引き続き埼玉県及び清瀬市と共同し、河川改修の支障となっている清柳橋の架け替えに伴う周辺道路の整備を進める。
- 河川・水路の氾濫等の軽減及び地下水の涵養を図るため、継続して開発業者に対し雨水抑制施設の設置を指導する。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	レ 11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	レ 13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
レ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公正をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	レ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R5.7.12	記入者職氏名	環境クリーン部次長 稲子谷 昂子 建設部次長 吉田 進一 建設部河川担当参事 加藤 孝雄
-----	---------	--------	--

第2節	みどり・生物	
関係所属	みどり自然課、河川課、公園課、生活環境課	

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和4年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,571人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「みどり・生物」 所沢市はみどり豊かで生き物が棲みやすいまちだ	1,185	46.1%	477	18.6%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
	新たなみどりの確保量	ha	55.07	90.00	105.05	○	98.00

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
4-2-1	生物多様性への理解の推進	みどりとふれあうイベントの参加者数	人	1,767	2,000	5,108	○	2,000
4-2-2	人と自然との絆の強化	みどりのパートナーの登録者数	人	1,368	1,410	1,517	○	1,420
4-2-3	みどりと水の保全	水辺のサポーター・ふるさとの川再生事業団体数	団体	8	9	9	○	10
4-2-3	みどりと水の保全	都市公園の整備面積	ha	141.19	145.24	146.00	○	148.02

節の基本方針への取り組み状況	
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○みどりの保全のため地域制緑地の指定と公有地化を図った。地域制緑地は7.71ha(北岩岡・下富特別緑地保全地区、北秋津・大堀山まちなかみどり保全地区、北中三丁目みどりのエコスポット)を拡大した。公有地は16筆(三ヶ島二丁目、荒幡、上山口地内、市購入5筆:4,792㎡、県購入3筆:4,783㎡、市寄附受8筆7,603㎡)を取得した。</p> <p>○生物多様性への理解を促すため、みどりのふれあいウォーク(参加1,363人)、本庁舎1階市民ホールにて環境展示会(見学延べ3,392名)、緑化講座(参加15名)、みどりのパートナー育成講座(参加71名)、出前講座(参加10名)、小学校授業(参加257名)を行った。</p> <p>○みどりのパートナー制度の周知と参加の案内を継続し、登録団体(4団体)が増加した。</p> <p>○水辺のサポーター事業及びふるさとの川再生事業での活動団体に対し、ゴミ回収等の活動支援を行った。</p> <p>○COOL JAPAN FOREST拠点施設の周辺環境整備の一環として、東川沿いの遊歩道について桜の剪定並びに維持管理を行った。また、砂川堀において、散策路を349.75m設置するとともに、樹木の剪定等を行った。</p> <p>○外来生物法の特定外来生物に指定されているアライグマを104頭捕獲した。</p>	
<p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p>	

今後の方向性

◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- 里山保全地域等の地域制緑地の指定を進め、特に保全が必要な緑地は公有地化を図る。
- みどりのエコスポットの整備を通じ、まちなかのみどりを創出することで、生物の生息・生育空間の創出と市民へ憩いの場を提供する。
- みどりのパートナー制度への登録者を引き続き募るとともに、緑化や育成に関する講座を実施し、登録者の活動を支援する。
- 水辺のサポーター・ふるさとの川再生事業については、PR活動を推進し、協力団体数の増加を図る。
- 砂川堀の水辺保全を目的として、川沿いに自然と調和した散策路の整備を進める。
- みどり映える水辺保全用地取得事業において、自然河岸用地を取得し貴重な水辺の自然を保全する。
- 都市公園整備を推進し、用地取得の交渉等を継続的に進めるとともに、計画的に整備を進める。
- 埼玉県が策定した「埼玉県アライグマ防除実施計画」に基づき、防除対策を実施し、生活被害の軽減に努める。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	レ 11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	レ 15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公正をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	レ 17 パートナーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R5.7.12	記入者職氏名	環境クリーン部次長 稲子谷 昂子 環境クリーン部生活環境担当参事 浅見 仙隆 建設部次長 吉田 進一 建設部河川担当参事 加藤 孝雄
-----	---------	--------	---

第3節	循環型社会							
関係所属	資源循環推進課、東部クリーンセンター							
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和4年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,571人			満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度		
「循環型社会」 所沢市はごみの減量と資源化の取組が充実している			849	33.0%	318	12.4%		
評価指標の達成状況	指標名		単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
	市民1人1日あたりのごみの排出量		g/人・日	580.0	577.1	557.1	○	575.6
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
4-3-1	『もったいない』社会の形成	総ごみ量に対するリサイクル率	%	28.9	31.4	30.9	×	32.4
4-3-2	ごみ処理の低炭素化の推進	ごみ焼却発電による場内電気使用量賄率	%	73.83	100	100	○	100
4-3-3	ごみの適正な処理の推進	不法投棄物量	t	26.0	24.0	9.5	○	23.2
節の基本方針への取り組み状況								
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○更なるごみ減量・資源化を推進するため、所沢市廃棄物減量等推進審議会において経済的インセンティブ手法等を含めた減量方策の審議を進めた。</p> <p>○令和3年度に増額した生ごみ処理機等の購入補助に係る予算を維持し、生ごみの減量・資源化を推進した。</p> <p>○市有施設28箇所にウォーターサーバー(31台)を設置し、マイボトルの利用を促進した。</p> <p>○食品ロスを抑制するため、6月に本庁舎1階市民ホールにてパネル展示を開催するとともに、HP、SNSを用いて「食品のてまえどり」「食品ロス削減レシピ」「恵方巻の予約と確実な受取」等の啓発活動を行った。</p> <p>○第2一般廃棄物最終処分場の整備に向けて、全ての処分場用地の購入を終えるとともに、設計と建設を一括して行う建設事業者が施設の設計を行った。</p>								
<p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>○総ごみ量に対するリサイクル率の未達成については、新型コロナウイルス蔓延の影響で、集団資源回収の収集量が減少したことが原因と考える。</p>								

今後の方向性

◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- 更なるごみの減量化・資源化を図るため、その方策を市民と共に検討する。また、ごみ減量・資源化の市民活動に対する支援を強化する。併せて食品ロスやプラスチックごみの削減等、引き続き、市民にライフスタイルの見直しを促し、「もったいない」の心を醸成する。
- 収集業務委託割合70%を維持し、安定的な収集運搬体制を維持するため、清掃等現業業務全体でその実施体制を構築する。
- ごみ処理の適正処理を確保し、効果的・効率的な処理を推進するため、東西クリーンセンターにおいて長期包括運営委託の確実な履行等を行うとともに、引き続き、第2一般廃棄物最終処分場の整備に取り組む。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

- 集団資源回収のメリットについて周知し、行政に代わる資源回収も含めた啓発を実施する。また、雑がみの分別や家庭での生ごみ処理機の使用等についても周知啓発を図る。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	レ	12 つくる責任 つかう責任
レ 4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	レ	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
レ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公正をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	レ	17 パートナーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう		

評価日	R5.7.12	記入者職氏名	環境クリーン部次長 市川 勝也
-----	---------	--------	-----------------

第4節	大気・水環境等	
関係所属	環境対策課、生活環境課	

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和4年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,571人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「大気・水環境等」 身のまわりで空気や水の汚染、騒音、悪臭などを感じない	1,141	44.4%	439	17.1%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
	大気環境にかかる環境基準の達成率	%	86.4	95.4	86.4	×	100

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
4-4-1	大気環境の保全	大気規制対象事業所のばい煙にかかる排出基準適合率	%	100	100	100	○	100
4-4-2	水環境等の保全	水環境にかかる環境管理目標の達成率	%	100	100	100	○	100
4-4-3	土壌・地盤環境の保全	汚染拡散防止率	%	87	95	96	○	100
4-4-4	生活環境対策の推進	苦情相談解決率	%	93.2	94.4	98.7	○	95.0
4-4-5	化学物質の環境リスクの管理	化学物質排出量	t	26.5	25.6	13.4	○	25.1

節の基本方針への取り組み状況

◆ **前年度の取り組み状況に対する振り返り**
 ○大気環境の常時監視を行うとともに、発生源となりえる事業所への立入検査や指導等を行った。
 ○河川や地下水の水質汚濁の状況を監視・測定するとともに、発生源となりえる事業所への立入検査や指導等を行った。
 ○土壌汚染対策や土砂のたい積規制等を行った。
 ○騒音・振動・悪臭等の公害苦情相談を実施し、早期解決に努めた。
 ○化学物質による環境への影響を未然に防止するため、関係法令に基づき、事業者による化学物質の自主的な管理を推進した。
 ○東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う放射性物質による環境へのリスクに対応するため、引き続き監視業務を行った(年4回)。
 ○環境推進員連絡協議会と連携し、春と秋の「環境美化の日」一斉美化清掃活動を実施した。

◆ **前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析**
 ○大気環境にかかる環境基準の達成率については、市内3地点で測定しているオキシダント濃度が環境基準未達成となっている。環境基準の達成が全国的に見ても非常に困難なものであることが理由として挙げられる。

今後の方向性

◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- 大気汚染や水質汚濁について、引き続き状況を監視・測定するとともに、発生源となりえる事業所への立入検査・指導を実施する。
- 土壌汚染対策や土砂のたい積規制についても引き続き法令に基づき監視・測定する。
- 騒音・振動・悪臭等については、発生自体を減らしていくために、引き続き啓発活動を実施する。
- 市内で使用されている化学物質について、PRTR制度に基づき、化学物質の性状及び管理、排出状況等の情報を把握し、市民に公表する。
- アスベスト対策については、大気汚染防止法の改正等を踏まえ、関係者への周知や指導等を適切に進めていく。
- 市民参加による環境美化を推進することにより快適な生活環境を確保する。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

- オキシダント濃度については、工場・事業場等の排出ガス対策、低公害車の普及啓発等を総合的に推進することで更なる改善を目指す。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ 3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	レ	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	レ	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公正をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	レ	17 パートナーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう		

評価日	R5.7.12	記入者職氏名	環境クリーン部次長 稲子谷 昂子 環境クリーン部生活環境担当参事 浅見 仙隆
-----	---------	--------	---